

報道用資料

報道関係者各位

～児童歌曲の始点と赤い鳥系童謡の終点を巡って～

「瀧廉太郎 生誕 140 周年 出生地ガイドツアー」

2019年8月24日(土)10時～11時 場所:東京都港区 西新橋エリア

一般社団法人日本童謡学会(代表理事:海沼 実)は、瀧廉太郎の生誕 140 周年となる 8 月 24 日(土)に、その出生地である東京都港区の西新橋エリアを散策するガイドツアーを開催します。

日本近代音楽の祖を築き、「荒城の月」「花」「箱根八里」といった日本歌曲を生み出した楽聖・瀧廉太郎が、今年 2019 年 8 月 24 日に生誕 140 周年を迎えます。

あまり知られていませんが、出生地は、当時の東京都芝区南佐久間町(現:西新橋)という場所です。その後、横浜、富山、竹田などに移り住み、再び東京に戻って作曲家として活躍したのはご存知のとおり。しかし、ドイツ留学をきっかけに病にかかり、最後は大分で 23 歳という短い生涯を終えます。

今回、瀧廉太郎が生誕 140 年を迎えるにあたり、出生地について調べていたところ、ある大発見がありました。

廉太郎が生を受けた明治 12 年(1879 年)8 月 24 日から数えて 67 年後の同日、同じ南佐久間町で戦後を代表する童謡『みかんの花咲く丘』が生まれたのです。

当時、作曲家の海沼實は、童謡歌手の川田正子・孝子姉妹の家に寄宿していました。その家に取材に来た静岡出身の加藤省吾に歌詞を依頼。こうしてできた『みかんの花咲く丘』は、戦後の日本に希望と感動を与えた不朽の名作として今も歌い継がれています。最後の童謡作曲家と言われた海沼實は、この南佐久間町において、他にも『里の秋』を始めとする数々の童謡を生み出しました。

児童歌曲の始点と言える瀧廉太郎、そして赤い鳥系童謡の終点と言える海沼實がつながった西新橋エリアを、思いを馳せながら散策するツアーを実施いたします。

本ガイドツアーは、一般社団法人日本童謡学会が主催し、海沼實の孫にあたる海沼実理事長と、加藤省吾の二女である加藤美智理事が参加します。

【本件に関するお問い合わせについて】

一般社団法人 日本童謡学会 担当:星 僚太郎
所在地:東京都新宿区四谷 1-18 高山ビル 3 階 B 室
電話:03-5404-6938 メールアドレス info@doyo.website
ホームページ <https://doyo.website/>



※南佐久間町の地図